

みんなで考えよう日本の安全!

月刊 セキュリティ研究

新型インフルエンザ流行の脅威は国家の危機

衆議院議員 末松義規

危機管理体制

新潟県

原子力発電所と広い県土、中越大震災復興の中での国民保護計画

鹿児島県

厳しい条件と共生して進化していく危機管理

緊急特集

2007

2

Security
Specialist
Association

強毒性新型インフルエンザ (ヒト家禽ペスト肺炎) に備えよ!

国立感染症研究所 医学博士 岡田晴恵

注目の企業紹介 株式会社 都

Info

特定非営利活動法人 NBCR対策推進機構

特定非営利活動法人 日本情報安全管理協会

特定非営利活動法人 日本防犯学校

American Society for Industrial Security

連載

ニーモニックNEWS
ザ・ボディーガード

巻末
特集

セキュリティ業界有力企業一覧

「真の安心と安全とは」

特定非営利活動法人
日本情報安全管理協会
常務理事 三浦 繁二

当協会は「市民生活の安心と安全」「企業活動の安心と安全」をスローガンとして活動して来ました。その後、東京都が“安全”と“安心”という言葉を使い出したとたん、安全と安心を冠したキャッチフレーズが世に溢れ出しました。当協会でも安全と安心どちらを先にもってくるべきかで皆で話し合った時のことを懐かしく思い出し、真の安心と安全について私なりに再度考えてみました。

80%安全でも20%が安全でなければ不安だと感じる人もいれば、80%安全なら安心だと言っていただけの人もあります。「セキュリティ上この建物は安全です。」と言われても判断するのは人間なので、建物が安全なのではなく人間の側の判断力が安全といった時に安心するのである。故に、安全とは私たちの生活をより便利に、より快適にすべく開発されている際の基準・尺度・条件・手段などを表す言葉であり、安心は人間の心の世界であると思っています。

最近のニュースでも安全のマークのついた製品が事故を引き起こしたり、安全と信じた食料が世界を恐怖に陥れたり、核実験をした国が安全性を声高に叫んだり、どうみても安心できないニュースがあふれ出ています。

これらの事は当然、我々の仕事にも関連することであり、慎重派の消費者は調査技術者の判断による「盗聴器はありません」という安全宣言を100%鵜呑みするのでしょうか。理系の感覚での安全は必ずしも実際の安心にはつながらないのだと言うことを我々は肝に銘じなければなりません。依頼は確かに盗聴・盗撮の探査依頼ではあるが盗聴器・盗撮機器があるかもしれないと思った出来事や原因は何なのかといった不安感の

根っ子を取り除く努力をし、今後安心して生活する為に我々は何をお手伝いできるのかがこの仕事の一番大事なところであり、一番難しいところであると思います。単に盗聴器・盗撮機器があった、なかったの世界ではないのであります。故にしっかりと専門機械をしっかりと使いこなし、しっかりとした探査をすることは当たり前であり、その探査結果を一つのたたき台として、なぜ不安になったのか、今後同じような不安を抱かない為にはどうすれば良いのか、専門家に頼む前に自分・自社でできる予防・予知にはどんなことがあるのか等のコンサルティングが最も重要となります。

安心・安全というのは技術だけで解決できるものではありません。技術では安全にすることはできても、必ずしも安心という目的を達成できるとは限らないのです。

弊協会としては、「安心・安全」とは相反する要素を持つグローバル化へと加速している現代に対応するべく、いかに社会的、技術的、内面的に安心・安全を追求していくのかが、今後の重要な活動テーマであると確信しております。



第15回 通信傍受対策技士二種 資格認定試験のご案内

1. 開催予定

資格種別	回次	開催日	開催地(受験会場)	定員	受験申請受付期間
二種	第15回	2007年3/11(日)	東京会場	50名	2/1(木)~2/28(水)

通信傍受対策技士とは、盗聴器・盗撮機器の探査を実施するための技術、知識、コンプライアンスを有し、そのセキュリティに関する水準が認められた方を言います。

- URL : <http://www.jilcom.or.jp>
- TEL : 03-5765-7677 FAX : 03-5765-3181
- 郵送 : 日本情報安全管理協会 事務局宛
〒108-0073 東京都港区三田2-14-5 7F

2. 情報安全管理士・通信傍受対策技士の業務

- 盗聴器・盗撮機器の探索・発見業務
- TSCM (テクニカル・サーベランス・カウンター・メジャー : 電子的監視対抗措置)
- 盗聴・盗撮対策のセキュリティコンサルティング
- 建物内の情報漏洩ルートの分析・レポート
- 新盗聴技術に関する対策技術研究・開発

3. 資格取得のメリット

- これまで、ガイドラインのなかった通信傍受対策技術を一元化された基準において、資格認定を受けることによって、顧客からの信用をより一層深めます。
- 経験者もこれまで自己流だった技術・知識を客観的に試すことができるチャンスです。

4. こんな方に適しています

- 盗聴器の探査・発見業務に従事している方
- 盗聴対策技術に興味のある方
- 一般住居の防犯関連の仕事をしている方
- 企業内情報セキュリティのご担当者
- 盗聴器に対して自分自身で防衛したい方

5. お申込について

募集期間の間、当協会のホームページ上にて「受験申込書」をダウンロードして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にてお申込み下さい。受験申込書を受付次第、受験票等の関係書類を送付させていただきますので、受験申請手続きを行ってください。詳しくは協会事務局までお問合せ下さい。

6. 受験手続について

当協会より、受験申請書等の申請書類を送付しますので必要事項を記入の上、事務局までご提出いただきます。受験申請書に記入される場合は以下の2点が必要となります。

- ① 顔写真 2枚 (申請3ヶ月以内に撮影のもの。正面・上半身脱帽。サイズ縦3cm×横2.5cm以上)
- ② 受験料の払込書の写し(コピー)

当協会では、受験料のお振込顔写真確認の上、受験票とテキストを受験者の皆様にお送りいたします。

テキストは、試験勉強にお役立てください。受験票は試験当日必ずご持参下さい。

7. 試験当日のタイムテーブル

(※時間割は会場の都合などにより、一部変更することもございます。)



使用テキスト

第15回 二種 2007年3月11日

10:00	会場受付開始
10:15~10:30	協会挨拶・連絡事項
10:30~12:00	筆記試験(90分)
12:00~13:00	休憩
13:00~17:00	技能試験(実技)・面接試験

情報安全管理士
認定試験に
ついての
お問い合わせは

特定非営利活動法人：日本情報安全管理協会 事務局
〒108-0073 東京都港区三田2-14-5
TEL : 03-5765-7677 FAX : 03-5765-3181